

一般社団法人入間青年会議所 2015年度

市政検証大会 市民アンケートへの田中市長の解答

開催日時： 平成27年8月18日（火）

開催場所：入間市市民活動センター活動室1

一般社団法人入間青年会議所

理事長 鈴木 充士

2015年度 地域政策実践委員会

以下の市長への質問内容は、市政検証大会当日に会場にお越しいただいた市民の方にご記入いただきました市長への質問を、私たち一般社団法人入間青年会議所にて精査及びまとめさせていただいた質問を田中市長への市民の声として、お届けさせていただきました。

なお、市政検証大会では、マニフェストを用いてPDCAサイクルを回し田中市長による市政を検証することを継続的に行っております。その為、市長による重要施策を対象としたアンケートとなっておりますことをご理解いただきますようお願い致します。

(市民の皆様から田中市長への質問・解答の見方)

市政検証大会では田中市長に継続的に使用していただいている自己評価シートがあります。自己評価シートには施策番号と施策・進捗状況・進捗内容・田中市長の自己評価・コメントが一覧となっています。

来場者の皆様にはこちらを参照して政策番号と施策に対する評価、提案、質問を記入していただいております。

進捗状況	実施した内容	自己評価	コメント
① 中学校までの医療費の無料化		⑤	
実行済		4	
実行中		3	通院分を含めて完全実施済みです。
方針変更後、実行中	平成25年4月より中学3年生まで医療費の無料化を実施。	2	
具体化検討中		1	
断念			

↑ 上記の表は田中市長の自己評価シートとして継続的に使用しています。

(記載例)

【政策番号 ① 「中学校までの医療費の無料化」】 ←自己評価シートの施策番号・施策名

・得点 3 ←自己評価シートを参照しての質問者の評価（1(悪い)～5(良い)の5段階)

評価理由 ○○○ ←質問者の評価の理由

質問 ○○○ ←質問者の評価の理由

提案 ○○○ ←質問者から市長に対する質問に対しての提案

市長答弁 ○○○ ←質問者からの質問を受けての田中市長のご返答

↑ 以上のような流れをご理解いただいた上でご覧ください。

【 政策番号 ④「ジョンソン基地跡地の活用の着手」 】

①ジョンソン基地跡地の活用の着手

NO.4

ジョンソン跡地を有効活用し入間市の顔となるエリアにする為に早期計画策定に着手する。

進捗状況	実施した内容	自己評価	コメント
実行済		5	
実行中	平成26年度に、入間市駅前側の留保地活用を検討するために必要な調査分析業務を専門業者に委託して実施。また、ジョンソン基地跡地利用計画審議会を設置。	4	ジョンソン基地跡地の有効利用に向けては、現在、利用計画審議会において、防衛省からの申し入れに応じて東町側の利用について審議中ですが、今後、入間市駅前側の活用についても検討を進めていくことを予定しています。
方針変更後、実行中		3	
具体化検討中		②	
		1	
断念			

・得点 なし

評価理由 なし

質問 「基地跡地の活用」について入間市の「へそ」となる場所を20年以上放置していると感じるが、どういう形を求めて進めていくのか？

原因＝財源がない

提案 民間企業と共同し財源を含め実現可能な計画を作る。

市だけでは議論に終わってしまうのでは？

市長答弁

入間市の玄関口である入間市駅は、将来にわたって重要な拠点で、駅前側留保地の活用にあたっては、周辺地区の開発と連携した中心市街地の形成と周辺環境と調和した良質な利便性の高い土地利用を進める必要があります。このため、具体的な利用計画の策定にあたっては、まず、土地利用のコンセプトや公共利用と民間利用のバランス等の明確化を図り、整備手法を検討しているところです。

・得点 1

評価理由 なし

質問 東町側の跡地について、市の利用計画とは異なる利用申し入れが防衛省から来ているが「入間市民のための有効活用」の基本的理念からの対応が全く感じられないが、どうしてなのか？

提案 市営（又は県営彩の森公園の拡張）の公園として利用。

将来的には騒音の無い電動ヘリやドローンを使用した民用空港の開港。民間ターミナルの用地として活用しては。

市長答弁

すでに防衛省に対して、受け入れの意思を表明したところです。首都圏直下型地震の発生確率が高まる中で、災害対策拠点施設の必要性、市の財政状況の中で今後の活用の可能性、国の予算で市民利用のできるスポーツ施設等が整備される

こと、市で作成した当初計画とある程度整合性が図られていること等を勘案して決定しました。

【 政策番号 ⑤「入間市力をアップさせる」 】

②入間市力をアップさせる

NO.5

埋もれている観光資源を掘り出し、磨き上げ入間市内外から人が集まってくる入間市をつくる。入間市全体が入間市という「公」と有機的に連携させブランド力をアップさせる。

進捗状況	実施した内容	自己評価	コメント
実行済	平成25年度から商工課内に観光担当職員を配置し、調整を開始。平成26年度には担当副参事（課長級職員）を配置して、観光担当をさらに1名増員し、推進体制の充実（3名体制）を図った。 平成27年2月に、有識者からなる「シティセールス戦略会議」を設置し、具体的な展開方向の検討を開始。	5	入間市力のアップについては、今後予想される人口の減少を食い止めるためにも、必要であり、入間市版まち・ひと・しごと創生総合戦略においても重要な取り組みになるものと考えています。有識者会議においてシティセールス戦略の策定を進め、今後の事業展開につなげていきます。
③ 実行中		4	
方針変更後、実行中		③	
具体化検討中		2	
断念		1	

・得点 2

評価理由 人口減少は他地域からの人口を流入させる市の政策を考えだすこと。レベルの高い「市の魅力を作りだす」ことに力を入れる。

質問 本日の市長の説明では、とても入間市を魅力あるものと外に対してアピールできないと思われる。市長の見解を伺いたい。

提案 「災害拠点の街」を市のコンセプトとして国とタイアップして、その施設を跡地に誘致し、医療関係の教育機関をつくる。

市長答弁

入間市の魅力については、現在策定を進めている入間市版総合戦略及びシティセールス戦略において検討を進めているところです。戦略の中の取り組みとして、入間市のアピールポイントを明確にして本市の魅力をわかりやすく伝えていくことについても現在議論中です。

・得点 2

評価理由 なし

質問 今ある入間市の立地や環境、歴史などを含め他にはない「住みやすさ」があると思う。そこをシティセールスとして発信するべきでは？

提案 流山市であった「ママになるなら流山。パパになるなら流山」の様なイメージを伝えられるようにしてもらいたい。「ない」のではなく「見つけられていない」だけでは。

市長答弁

現在、シティセールス戦略会議を有識者、市民の方々と組織し、市の魅力の素材となるものを探るとともに、それらを編集加工し、魅力的な地域資源とする手法等を検討していただいています。

入間市は、「自然の豊かさ」「住みやすさ」を兼ね備えており、独自の歴史や文化等の視点からまちの魅力を発信していき、入間市ならではのシティセールス戦略を今後市政に活かしていきたいと考えています。

・得点 2

評価理由 市内に住みたいと思う人を増やすのは大切ですが、市外から来る人を増やすことで財源につながると思います。その観光スポットの不足

質問 いるまんじゅうのような一時的なものではなく、継続的な観光スポットやお土産 etc. に目を向ける予定は？

市外へメディアを使っての発信はどうしますか？

提案 市内に住みたいと思う人を増やすのは当然のことだとおもいます。大きい観光スポットでなくても良いと思います。PR はメディアへの働きかけ、FB、LINE 等も利用されると、紙媒体から情報を得ない人の層につながるとおもいます。

市長答弁

まちの魅力には、様々な要素があると思います。市外に発信することと同じくらい、市民の方々がまちの魅力を再発見することが大切であると考えています。

シティセールス戦略の中で、シビックプライドと言われるような、郷土やまちに対する愛着度を高め、市民の皆さんがセールスマンとして一人でも多くの人々に「入間市」を宣伝し、入間市での生活を楽しみながら入間市の魅力を自慢していただけるような仕掛けや環境の醸成をしていきたいと考えています。

市民の皆さんが自発的にフェイスブック等を活用して発信する個人的なPRと行政から組織的に働きかけるPRを組み合わせ、さらに入間市を効果的に長期的に売り込んでいきたいと考えています。

【 政策番号 ⑥「入間高校の跡地利用」 】

③入間高校の跡地利用

NO.6

入間高校跡地を県で活用方法を決定する前に入間市民のために有効活用できるように計画策定し、県に発信していく。

進捗状況	実施した内容	自己評価	コメント
実行済	入間市議会議長、教育長、連合区長会長とともに市内への特別支援学校の設置に向けて県知事、県教育委員会に整備を要望。	5	平成28年4月より県内初の「普通科」と「職業学科」を持つ高等部単独校として県西南部特別支援学校「埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校」が設置されます。これにより多くの児童生徒の自立と社会参加の促進が図られます。今後は休日の施設開放について要望していきます。
実行中		4	
方針変更後、実行中		3	
具体化検討中		2	
断念		1	

・得点 5

評価理由 年々増加している狭山特支の児童生徒数のため教室や職員駐車場が不足するなど、現場では対応に苦慮しているようだった。高校が分離することでスペースに余裕が生まれ、入間市にはなかった特支ができる事を高く評価したい。

質問 卒業後の進路について、入間市とわかくさ特支で協力していく予定はあるのでしょうか？「職業学科」より「普通科」の生徒の方が就労先を探すのは困難なので、何らかの支援が必要だと思いましたがいかがですか？

提案 なし

市長答弁

特別支援学校を卒業される生徒の方々の主な進路としては、一般就労（企業等）と福祉的就労（障害者総合支援法に基づく就労継続支援事業所等）があり、これらの就労を希望する生徒に対して、各学校において進路指導が行われています。

平成28年4月開校予定の「埼玉県立入間わかくさ高等特別支援学校（旧県立入間高校）」においても、基本的には学校の進路指導が就労支援の中心となると思われませんが、市としても働く意欲のある卒業生が1人でも多く就労できるような支援に努めたいと考えています。

具体的には、市役所3階にある「入間市障害者就労支援センターりぼん」と「入間市障害者相談支援センターりぼん」を中心に、その方の障害の状況や業務の希望等に合わせて、一般就労を希望される方には就職活動や職場定着のための支援を、福祉的就労を希望される方には就労継続支援事業所（大樹作業所等）や地域活動支援センター（扇台福祉作業所）等への入所のための支援を、学校とも適切な連携を図ります。また、平成27年1月に市役所一階に開設し

ました「ふるさとハローワーク」とも情報を共有しながら取り組んでいきたい
と考えています。

【 政策番号 ⑦「観光課の設置」 】

①観光課の設置

NO.7

埋もれてる観光資源を掘り起こし充実化すると同時に発信する

進捗状況	実施した内容	自己評価	コメント
実行済	【4年間で行う重要施策について】の②に同じ	5	同左
実行中			
方針変更後、実行中			
具体化検討中			
断念			

・得点 3

評価理由 どのような観光を目指しているのかわからない。

質問 埋もれていた観光資源が掘り起こされた実例は何でしょうか？

提案 なし

市長答弁

例えば、相撲関係の取り組みは埋もれていた資源でした。毎年千人程の参加者を集める「わんぱく相撲」、過去2回行われ満員御礼となった「大相撲入間場所」、「大相撲春日野部屋合宿」等、市内には様々な相撲の文化や取組がありました。これらを有機的に結び付けて市内外にPRすることで相撲関係の事業への参加者が急激に増え、マスコミに取り上げられるなど「相撲のまち 入間」を市内外に印象づけることができました。

「いるまんじゅう」も、実験的な取り組みの一つです。少年漫画雑誌ではありますが、発行部数日本一を誇る雑誌の特集記事として、いるまんじゅうのみならず、入間市のことを取り上げていただいています。これも、市内出身の若手漫画家のことを紹介することから始まりました。入間市の歴史的な人物、歴史的遺産等も今後積極的に観光資源開発に取り組んでいきたいと考えます。

・得点 2

評価理由 なし

質問 職員を増やしてどうやっているのか内容が解らない。いるまんじゅうが人気と言うがおいしくなかった。これに使ったお金と収入はどれだけあったのか知りたい。

提案 B級グルメとして何か作るとかもっとおいしいものを作ったらどうですか。歳入を考える市民の考えを聞いてくれる市長が身近にいて欲しい。

市長答弁

「いるまんじゅう」は、製品化プランが出来上がる前に、市の名物を作ろうと市職員の自主研究会と福祉作業所が半年間かけて、漫画を素材に、様々な試作品を作ったことが現在の製品に生かされています。その後製品化プランがまとまり、雑誌出版社と市及び市観光協会がさらに研究を加えて作り上げたものです。特に市費を投下して制作にあたってはおりません。わずかではありますが、市観光協会の利益となっており、観光協会事業の原資となっています。

現在は単発的事業の積み重ねではありますが、今後はさらに研究をすすめ、効果的で効率的なシティセールス等の事業運営にあたってまいります。

【 政策番号 ⑪「歳入の確保について」 】

②歳入の確保について
市内産業の発展と受益者負担の推進、徹底的な行政改革を図る

NO.1 1

進捗状況	実施した内容	自己評価	コメント
実行済	市内産業の発展では、「企業のブチ自慢」により入間ブランドを発信。 受益者負担の推進としては、霊柩車料金、事業系一般廃棄物手数料等の見直しを行い、国保税についても、入間市国民健康保険運営協議会の答申を踏まえて、平成27年度より引上げを実施。	5	全てを税金で賄うのではなく、利用料金の値上げ等を行うことで受益者負担を求め、時には必要であると考えます。適切な負担を求めて、市民全体の公平性を確保することも、安定した市政を継続していくためには重要な視点であると思います。
実行中		4	
方針変更後、実行中		③	
具体化検討中		2	
断念		1	

・得点 2
評価理由 なし

質問 福祉も何も市は社協や民間に又、多くはボランティアにまかせ、あれもこれもやってる(やる)と言うが責任問題が出たらボランティアは困る。多少の援助(経済面)もお願いしたいと思うが、市長の見解は？

提案 なし

市長答弁

まちづくりのさまざまな分野で市民に活躍していただくことが、地方創生やまちの活性化に必須と考えています。本市では、「元気な入間まちづくり基本条例」

を制定し、市民との協働によるまちづくりを推進するための環境整備を進めてき
ところでは、今後も必要な支援については、継続的に取り組んでまいります。

・得点 なし

評価理由 なし

質問 市民には財政的裏付けを理由に税金や受益者負担金を上げられるが、それを実施されるた
めに他からの原資の導入を考えることを第一に考えていますか？

提案 なし

市長答弁

本市の歳入の根幹は市税収入であり、まずはその安定的な確保が必要であると
考えています。但し、国の交付金などについても最大限活用を図り、事業財源の
確保に努めてまいります。受益者負担は、単に歳入における課題というだけでは
なく、市民間の費用負担の公平性を保つためにも必要なことだと考えています。
また、行財政改革プランを作成し、計画的に経費を削減し、サービスの向上に努
めてまいります。

【 政策番号 ⑫「市民提案型の協働について」 】

③市民提案型の協働について

NO.12

公民館、地区体育館の運営の協働化、市道の植え込み公園などの里親制度体制の構築

進捗状況	実施した内容	自己評価	コメント
実行済		5	NPO法人まちづくりサポートネット元 気な人間とともに市民と行政との協働の 推進に取り組んでいます。なお、市民と の協働の推進に向けて平成26年度に 「入間市協働ガイドライン」の見直しを 行い、協働提案事業についても更なる協 働の推進に向けて制度見直しを行いま す。
実行中	施設の管理運営にあたっては、行政改革の視点 から指定管理者制度への移行を含めた民間委託 の拡大についての検討を進めている。 市民提案型の協働としての具体的手法について は検討中。	4	
方針変更後、実行中		3	
具体化検討中		②	
断念		1	

・得点 4

評価理由 山ゆり荘の経費の削減した。

質問 山ゆり荘経費が大幅に削減出来たか知りたい。他の施設はどうなのか？

提案 なし

市長答弁

指定管理者制度は「経費削減」と「サービス向上」の両面において効果が期待

されるものであり、他の施設についてもこのことを基本的な考え方として対応を図ってまいります。

指定管理者制度の目的は、民間のノウハウの活用と経費の削減です。

やまゆり荘の経費については、指定管理移行前の平成 26 年度の予算額を基に算出した平成 27 年度の上限額（直営経費見込額）52,571 千円に対し、指定管理者制度による指定管理料は 38,413 千円であり、経費の削減額は 14,158 千円となります。

平成 27 年 4 月 1 日の指定管理者制度移行後、半年が経過しましたが、指定管理者の創意工夫と誠意、努力によりサービスの向上が図られています。利用者からも大変好評をいただき、利用者とともにセンター運営を考えていくという姿勢が見られ、市民に愛される施設となるような取組を行っていただいています。今後、更により良い施設として進化していくことが期待できるところです。

以下の質問は、田中市長の自己評価シートとは関係ありませんが、市政検証大会当日に田中市長に第三部にてお話しいただきました「入間市における未来の可能性」講話を受けての質問です。

【 政策番号 なし 】

・得点 なし

評価理由 なし

質問 市政50周年を迎えこれからの50年をどのように発展していくか考えていますか？

提案 かつて協議会まで作って検討した近隣地域との合併も考えて良いのではないか。さいたま市を前例とする西さいたま市（入間、狭山、所沢）を構想しては。

市長答弁

所沢市、狭山市、飯能市とは協議会を設置して、さまざまな形で連携を図ってきたところです。4市は歴史的にも地理的にも関係が密接で、消防においては既に4市に日高市を加えて一つの組織を作って対応しているところです。地方創生の時代でもあり、合併という形には拘らず、日高市を含めた5市の間で、時には競いながらも連携を強化し、魅力あるエリアづくりを進め、相互に発展していきたいと考えます。

以上